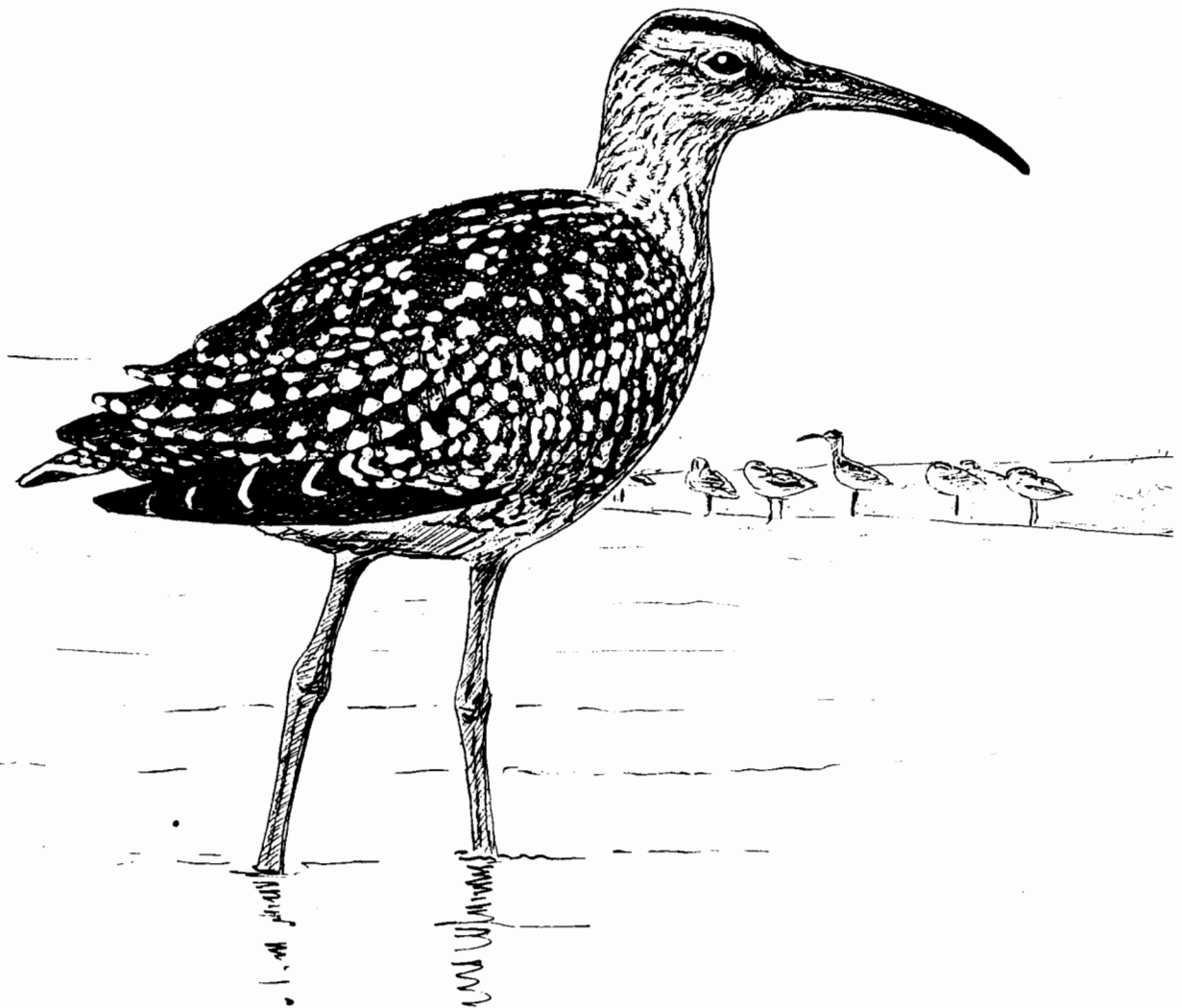


# あしどり

第24号



1999年 8月  
(財)日本野鳥の会 三重県支部

● 地球環境を破壊しているのはだれ？ 今村 禎（伊勢市） ●

20世紀が終わろうとしている今、世界中で、これまでになく自然環境の悪化、地球温暖化の問題などが叫ばれていますが、日本では危機感がほとんど感じられないように思うのは私だけでしょうか。

現在の状況がこのまま続くと、もっとも早い人類滅亡の時期は2030年とのデータもあるそうです。今のペースで熱帯雨林を伐採し続けると、世界中の熱帯雨林がなくなってしまう、二酸化炭素の増加に伴う気温の上昇で海面は数十メートルから数百メートル上がる、とも言われています。なぜ、熱帯雨林が伐採されるのでしょうか。

中南米ではアメリカがジャングルを伐採して焼畑にし、安い牛肉を作って日本に安く輸出しています。日本でハンバーガーが安いのもそのためだそうです。また、アフリカではヨーロッパ諸国が、アジアでは日本が、建築材料に、紙の原料にと森林を伐採しています。さらに熱帯のマングローブ林も伐採され、エビの養殖や、「植物生まれ」の合成洗剤の原料となるヤシ油をとるココヤシの栽培の場になっています。それらは全て、日本が最大の消費地です。日本人は、知らず知らず、世界中の森林の伐採に加担しているのです。熱帯雨林で越冬し、日本に渡ってくる夏鳥たちがその影響を受けているのは、まず間違いないところでしょう。

さて、今の世の中を考えてみると、地球に寄生しながら地球を食べ尽くす生活は、一向に変わろうとしていません。すでに50億年かけて蓄えられた資源を、たかだか百年の間に、ほんの一握りの人間が浪費してしまったわけで、もうこれ以上、石油エネルギーに頼る生活を続けていると、2030年(?)の地球滅亡が起こっても不思議ではないように思えてくるのは、私だけでしょうか。これからは、日本人の一人ひとりが自分の生活が地球環境に与えている影響を自覚し、太陽、風、水といったエネルギーを地球から借り、「生活させてもらう」というような謙虚な考え方で生きていくことが、この地球の今を生きている人間の義務であり、責任だとつくづく思う今日この頃です。



目 次

今月の表紙 絵： 田中 豊成

- 巻頭エッセイ・表紙の言葉 ..... 2
- 特集:三重の干潟
  - はじめに..... 3
  - 北勢～津地区の干潟 ..... 5
  - トピック・「守りたい!残したい!」
  - 高松海岸(朝明川河口干潟)の自然」..... 7
  - 中勢～南勢地区の干潟
  - 雲出川・櫛田川・愛宕川河口..... 9
  - 宮川・外城田・勢田川河口 .....10
- お知らせと報告のページ .....11
- 会員のページ .....13
- 探鳥会報告 .....15
- 探鳥会報告・その他・奥付 .....16

☆今月の表紙☆  
 ☆干潟の野鳥：チュウシヤクシギ☆

干潟のシギ・チドリを、というリクエ  
 ストに応じ、表紙ですから、見栄えがし  
 てポピュラーなチュウシヤクシギにし  
 ました。春の渡りの時期に伊勢湾側で数多  
 く見られます。私の住む名張では5月の  
 連休前後に2〜3羽程見られる時があり  
 ます。今年は確認できませんでした。

田中 豊成 (名張市)

はじめに…

# 干潟。



1997年4月の諫早湾の堤防締め切り、名古屋港藤前干潟の埋め立て問題、そして東京湾三番瀬など、「干潟」は近年自然保護の世界では大きくクローズアップされている環境です。環境庁が昨年発表した「シギ・チドリ類重要渡来地域」とされる干潟は全国で13ヶ所、また、(財)日本自然保護協会の報告による日本の主な干潟は前述の13ヶ所を含む37ヶ所となっており、そのうち16ヶ所(43%)に環境悪化要因(河口堰、道路、人工島造成、港湾・護岸工事などの開発)があるということです。三重県内の干潟は、木曾三川河口を除き、このリストには入っていませんが、今後、全国の大規模な干潟で環境の悪化が進めば、地方の小規模な干潟の存在意義、重要性は増す一方だと考えられます。今号の特集では、三重県内の干潟について、その意義と実情をあらためて考え直し、野鳥観察の場としてだけではなく、干潟の重要性を再認識してみたいと思っています。

## 干潟とは…

干潟、といえば当会の会員ならば誰でも「シギ・チドリ」と答えるでしょう。干潟は河川流域から運ばれた土砂が河口部の浅い海に堆積してできた場所で、満潮時には海中に没し、干潮時に空気にさらされます。干潟の泥土は陸地からの有機物を多く溶かし込んでいるため栄養分に富み、また空気にさらされたり波に洗われたりするため酸素も多く含み、その上水深が浅いため、太陽光線もよく届くので植物性のプランクトンの成長にも適しています。そのため、それらを餌とする多様な動植物の食物連鎖が生じ、莫大な数の生き物を養うことができます。沿岸では、こうした環境を利用して魚介の採集や、ノリの養殖が古くから行われてきました。

特に中勢以南の海岸では、冬場、カモ類の観察に行くと、浅瀬一面にノリ粗朶が立ち並んでいるのを見ることができます。

干潟では、流入する河川や潮流により底質が異なり、砂質の干潟か泥質の干潟かによって、また場所によって、住んでいる生き物の種類も違ってきます。私たちが観察を楽しんでいる野鳥たちは、その食物連鎖の頂点に位置し、干潟の豊かさの一つのバロメーターとなっているわけです。

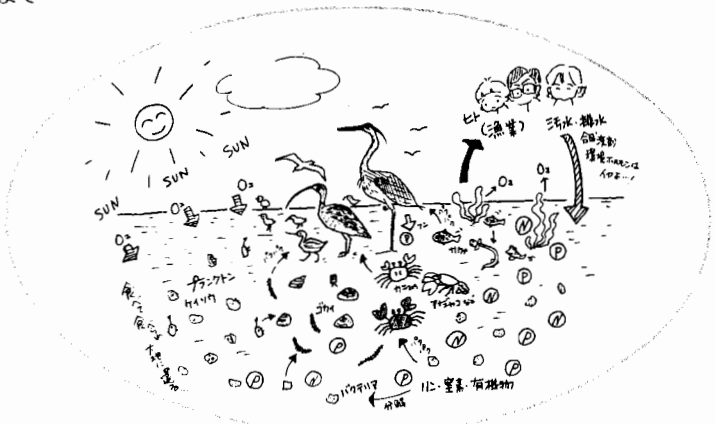
多くのシギ・チドリやカモ・カモメ類は渡り鳥であり、繁殖のため、はるばるオーストラリアからシベリアまで旅をする種類もあります。日本や中国大陸沿岸の干潟は長距離を飛ぶためのエネルギー補給地であり、種類によっては、越冬の場ともなります。特定の干潟に集中して立ち寄り種(例えば北九州に多いズグロカモメやツクシガモなど)は、その干潟が消失すれば、絶滅する恐れさえあります。今や、干潟の保全は、国際的な義務となっているのです。

## 干潟の役割…

それでは、野鳥がいない(来ない)干潟には生き物も少なく、環境的価値が低いのでしょうか。私たち人間にとっても、干潟が重要な役割を果たしてくれていることは近年よく知られてきましたが、あらためていくつかまとめてみました。

### 1、水質を浄化する

川の上流からの生活排水、汚濁物質などの有機物は干潟のバクテリアが分解してくれます。また、アサリなどの貝類、カニ、ゴカイなどの食べ物も海水や泥の中の有機物です。最近の定量的な研究(香川大学門谷茂教授)によれば、高松市の干潟において、これら底生生物には流入する窒素の58%を除去する能力があったそうです。活性汚泥方式の下水処理場ではせいぜい20%とのことです。干潟を埋め立てて下水処理場を造ることの愚は明らかです。また、下水処理では、最終的に浅い池に処理水をためて3次処理を行うことが理想的ですが、場所や費用の問題でほとんどが2次処理のまま放流されます。干潟では費用をかけることもなく、自然に3次処理がおこなわれています。潮受け堤防が締め切られた諫早湾でも、堤防内の調整池の水質が急速に悪化し、ヘドロの堆積が進んでいるそうです。



干潟を支える生き物たち…私たち人間もその生態系の一員です。

2、漁場を豊かにする

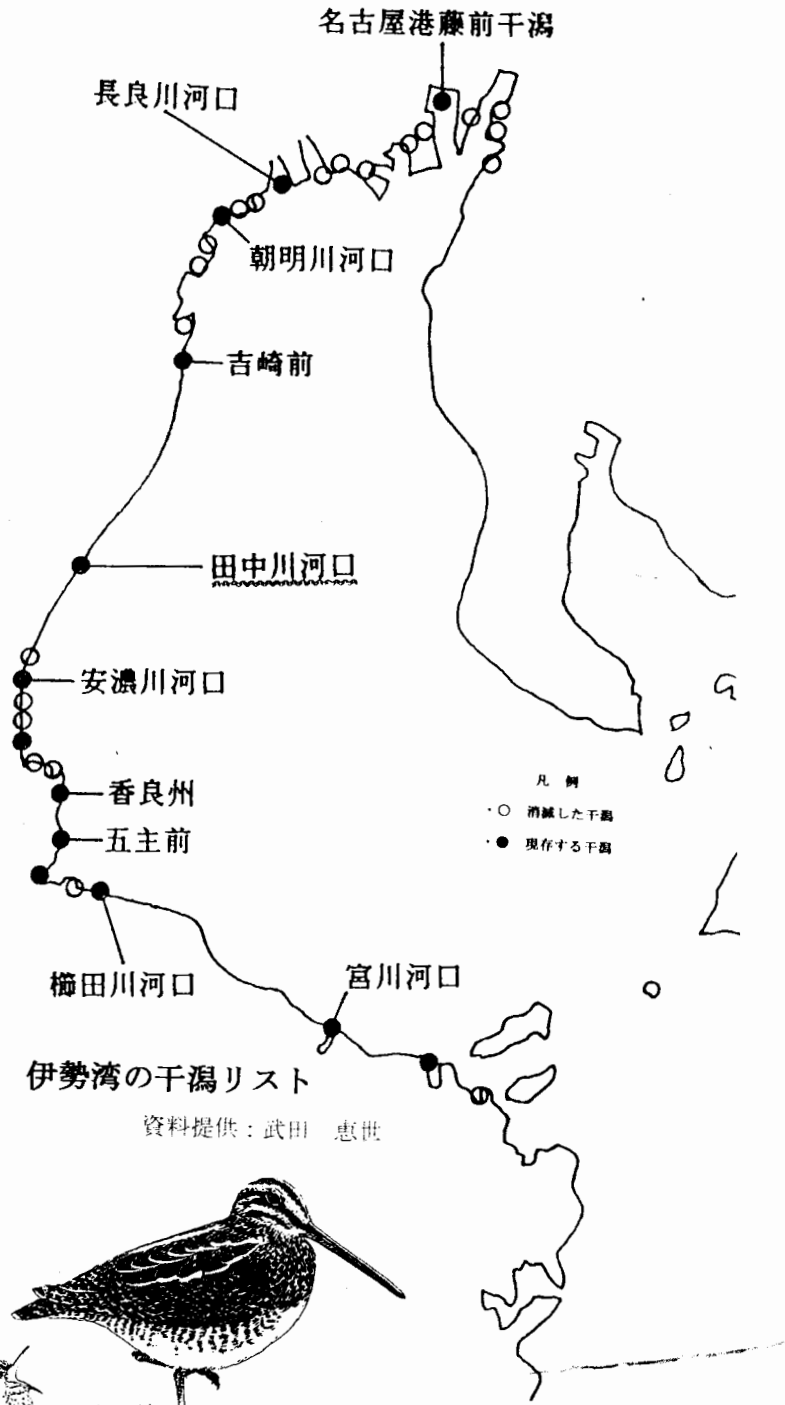
干潟は海のゆりかごといわれます。前出の諫早湾は「有明海の子宮」といわれていました。干潟付近の海は水深が浅く安全で、産卵のための藻類や餌となるプランクトンに富み、稚魚や稚貝の成長にとってなくてはならない場所なのです。したがって、干潟に悪影響を与えるような開発行為は、周辺の漁場の荒廃をもたらします。諫早で多くの漁民が反対運動に立ち上がったのも、経験的にそれを知っていたからなのです。

3、赤潮・青潮の発生を抑制する

1999年5月に行われた諫早干潟救済シンポジウムでも、堤防締め切り後、有明海で赤潮の発生が増加したことが報告されました。(山下弘文代表) 海の富栄養化が原因の赤潮、貧酸素化が原因の青潮も、干潟に到達すると潮の干満による酸素の供給により、消滅するということです。また赤潮の場合、その発生原因となる窒素やリンそのものの除去を干潟が行うことは前述の通りです。

**干潟の来歴...** 近年、無条件に干潟や浅瀬を埋め立てて開発することが困難になってきたことは、記憶に新しい藤前干潟の埋め立て中止や、千葉県三番瀬の計画縮小、最近では中部国際空港建設に伴う埋め立て工事に環境庁が難色を示している事例などでも明らかです。しかし、神戸では多くの市民の意思に反した空港建設が行われようとしていますし、締め切り前にも懸念されていた様々な問題が現実となったにも関わらず、農水省は諫早湾の堤防を開けようとはしません。他にも徳島の吉野川河口など、全国で深く静かに、開発計画は進行しています。そしてそれは、防災目的のほか、産業振興を望む地元住民に応えるもの、海洋レジャー基地を要望する市民の需要にこたえるものという前提で行われる、いわば「私たちのための」開発であることも少なくありません。つまり、干潟を守るためには市民が環境意識を高め、「そんなものは必要としていない」ことを訴えていくことが必要なのです。

次のコーナーでは、県内の干潟がどんな問題を抱えているのか、投稿者のレポートで見たいと思います。



伊勢湾の干潟リスト

資料提供：武田 恵世



後背湿地の問題...

干潟を考えると、後背湿地のことを忘れてはならないでしょう。水田やため池、灌漑用水路、河口部の葦原など、周辺の湿地は満潮時の野鳥の休息・採餌の場所であり、いろいろな生物が生息しています。かつて、河口部に広がっていた氾濫原（洪水などで冠水、かく乱される場所）の代わりとして生物の生息場所になっているのがこれらの場所です。産業構造の変化や宅地化により、海岸部の池や湿地が埋め立てられる傾向がありますが、干潟とセットにして、保護を訴えていきたいものです。

## 北勢～津地区の干潟

編集部：田中川河口、安濃川河口、鈴鹿川河口などについて武田恵世さんにききました。田中川河口干潟については昨年新聞でも取り上げられ、特に熱心に調査をされているようですがなぜでしょうか？

### 1. 田中川河口干潟の教訓

#### ①ここ30年で伊勢湾の干潟が激減

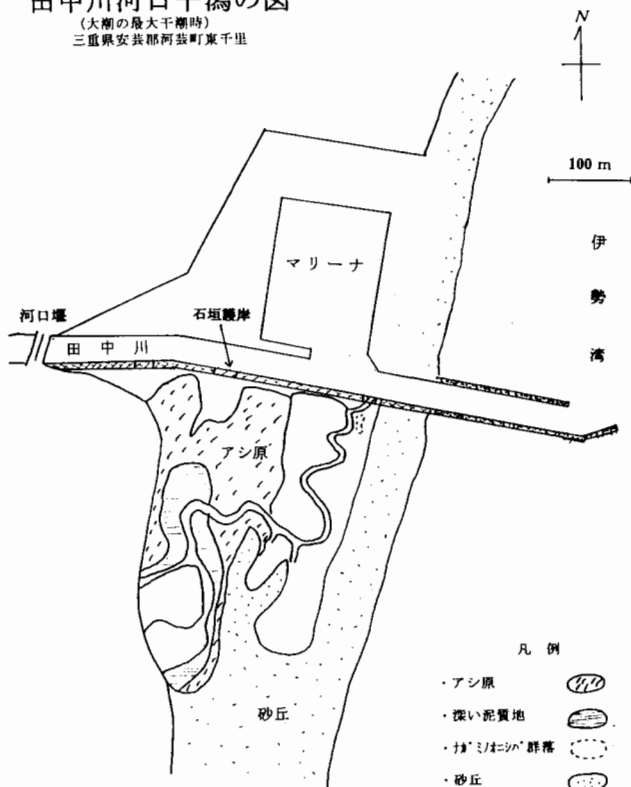
武田：伊勢湾の干潟は1950年代には34ヶ所ありましたが現在では14ヶ所に減少しています。（前ページ図参照）この14の内比較的大規模な泥質干潟は4ヶ所しか残されていません。田中川河口干潟はその一つの潟湖干潟です。

#### ②田中川河口干潟の破壊と再生

田中川河口干潟では1991年から河芸町の依頼により県が北側の干潟を掘削して、マリーナを建設しました。私達との話し合いで、その際南側の干潟は完全に保護されることになっていましたが、工事用仮設道路により南側の干潟の潮の出入りが阻害されたため、1991年5月から9月の4ヶ月に渡って約90%が水没し、干出しなくなり、富栄養化が進み、底生

#### 田中川河口干潟の図

（大潮の最大干潮時）  
三重県安芸郡河芸町東千里



#### 田中川河口へのアクセス

田中川河口へは、河芸町内国道23号線沿いのスーパー「オオクワ」南の信号から海岸方面へ、踏切を渡ってしばらくいくと堤防に出ますので左折します。最寄駅は近鉄線「千里（ちさと）」駅です。

## 三重の干潟レポート

物は壊滅状態となりました。同年9月末には、滞筋が確保され、潮の干満がもとどり、水環境は元にもどったのですが生物は急には回復しませんでした。更に、翌1992年からは河口の開削によって波が入るようになったため、泥が流出し、全体が砂質化し、生物が単純化しました。そのため、1994年3月に三重県により、河口の消波堤防が強化され、干潟と河道の間の石垣護岸が高くされ、波が緩和され、泥が再び堆積しはじめ、塩分濃度の分布もほぼ元の状態に回復しました。しかし、大型底生生物のうち、アサリ、ヤマトシジミなど13種（33%）は7年後のいまだに回復が認められず、また、カワアイガイ、アシハラガニなど14種も一旦回復しましたが再び減少しています。一旦破壊された干潟の生態系は、環境が回復して7年を経ても容易には回復しないことが明らかになったのです。この調査結果を一昨年の日本生態学会で発表したところ、日本生態学会会長の小野勇一教授はじめ、干潟の専門家の多くが、「名古屋港の藤前干潟では人工干潟造成で良いと言ったがえらいことを言ってしまった。これでは人工干潟などとても無理だ。」と言われ、人工干潟代償案を否定する根拠ともなりました。

### 2. 干潟が減ったわけ

#### ①開発と自然消滅？

編集部：1950年代には伊勢湾に34ヶ所も干潟があったそうですが、どうして14ヶ所、半分以下にまで減ったのですか、やはり開発ですか？

武田：埋立で直接つぶされたのは15ヶ所で、後の5ヶ所は自然消滅です。先に田中川河口干潟で河口を広げたために波が当たり、干潟の泥がなくなった話をしましたが、干潟は砂州や浅瀬、半島などによって波が直接当たらない場所に砂泥がたまってできるのです。この5ヶ所は海底の浚渫やダムや堰で川から砂泥が流れ込まなくなったために、波を緩めていた浅瀬や砂州が消滅し、波に洗われて消滅したのです。安濃川河口干潟の砂州除去に反対したのも、田中川河口干潟で起こったことが大規模に起こることが目に見えているからです。

#### ②干潟には波を緩めるものが必要

編集部：干潟には波を緩めることが大切なのですね。  
武田：そうです。波や海流を考えずに土砂を海岸に積み上げてもすぐに海に消えてしまいます。人工干潟の多くがその点で失敗しているのです。

## 3. 干潟の浄化能力

編集部：干潟の浄化能力について詳しく。

武 田：干潟には最新式の下水処理場と同じ仕組みがあるのです。下水処理場では、汚水に大量の空気を送り込んでかき回す方法が行われています（活性汚泥方式）。微生物の食べる栄養が有り過ぎて増えすぎ、酸素が不足した状態の汚水に空気を送り込んで微生物の活動を活発にし、汚物を食わせるのです。小規模な下水処理場や合併浄化槽では「ろ材」と言われる物を沈めて微生物を付着させ、汚物を食わせて汚水を処理する仕組みです。下水道が出来ても、油を流したり、工場排水を混ぜたり、ブルーレットなどを使用してはいけなと言われてるのは微生物に対し生物的毒性があるためなのです。

一方、干潟は1日に2回、必ず引き潮で干上がるので空気にさらされます。そして、表面にはカニや貝の開けた孔が無数にあり、泥の中にも酸素が十分に供給されます。そして、満ち潮の時も浅いので空気が混じりやすいのです。エアープンプで空気を送りこむのと同じです。特に河口では、淡水と海水が接した塩水クサビやウォーターカーテンとよばれる界面ができ、そこではイオンの相互作用で有機物が沈殿しやすくなるのです。そして、干潟表面には無数の微生物がいて、その微生物を食べる貝やカニがいて、さらにそれを食べる魚や鳥がいてと有機物を効率よく処理して行くのです。



## 4. 赤潮や青潮も消す？

武 田：下水処理場では汚泥、つまり汚物を食べた微生物の死骸の処理が大問題ですが、干潟では、微生物を食べる生物が多いので汚泥は少なく、それでも残った汚泥は干潟を増やすと言う方向に進んで行きます。この仕組みのため、赤潮や青潮も処理してしまうのです。赤潮とは汚物を食べる動物プランクトンが大発生し、無酸素状態になった状態です。それが干潟に来ると、先のような仕組みで酸素が送られ、消えて行くのです。青潮は、深い海底で汚染がひどすぎ、微生物が増えすぎて、無酸素状態になった海水の塊が強い風などで海面近くに浮き上がってきた状態です。それも干潟に来ると、先のような仕組みで酸素が送られ消えて行きます。田中川河口では、潮の干満がなくなってすぐに富栄養化し、魚が全滅しました。田中川はもともとドブのような汚染のひどい川なのですが、干潟があるのでめだたなかったのです。諫早湾も児島湖も同じ理由で悪臭の漂うひどい状況になっています。

## 5. 干潟は生命のゆりかご

編集部：干潟は生命のゆりかごとと言われるわけは？

武 田：春から秋にかけて、川の入り組んだワンドや海岸の潮だまりを覗いてみると、小さな稚魚がたくさん見られると思います、多くの魚の稚魚は大きな魚に食べられないように、また、泳ぐ力が弱いので、波の緩い浅いところや藻場と言われる海草が密生したところで集団で暮らしています。波が緩く、浅い干潟はその絶好の場所なのです。また、酸素が豊富なので、卵にも良く、クサフグのように体を空中にさらす危険を冒してまで産卵に来る魚も多くなります。海面はプランクトンが濃縮状態になっており、稚魚の餌も豊富です。効率よく餌をとれるので、フジツボやイガイなどは、半日干上がる危険を冒してまで潮間帯に住んでいるのです。深場ではこれほどピシリとは張り付いていません。その濃縮液が日に2回干潮時に干潟の表面一面に落ちてくるのです。足の踏み場がないくらいウミナナなどの貝類やチゴガニなどのカニ類がいますが、十分に餌があるので、シギは適当に長くちばしを泥に差し込むだけで餌に当たるのです。トウネンやハマシギの大群が来ると干潟が満員になったような状態になりますが、それで生物が減るようなことはないのです。

大阪で長年暮らしてきて、三重県に帰って来て気付いたのですが、干潟の野鳥の写真が三重の方が撮りやすいのです。大阪湾では埋立途中の工事現場や狭い干潟にいて、忙しく動き回っていたのですが、三重ではたいいのんびりと休んでいるのです。おそらく、大阪では餌が乏しいので必死に動き回っていて、三重ではすぐに満腹するのでのんびりしていたのでしょう。

干潟はその中の何かや特定の生物が良いと言うのではなく、その土質、潮の干満、多様な生物などの、微妙な総合作用で、すばらしい浄化能力や生き物を育む力を発揮しているのです。

## 6. 干潟を守るには

編集部：干潟を守るにはどうすれば良いのでしょうか？

武 田：干潟の埋立や砂州や浅瀬の除去に安易に同意しないことです。

東京湾、伊勢湾、大阪湾、瀬戸内海の埋立地は大部分が干潟を埋めて造られた土地で、東京湾、大阪湾ではもう水深30m以下の沿岸部は皆無に近い状態です。注目すべきはその埋立地の利用で、大阪湾全体で見ると関西新空港関連埋立地に進出企業が0であることも反映して今では有効利用率は1/6を切っています。東京では臨海副都心の惨憺たる状況がいまだにお笑いになっています。伊勢湾岸特に名古屋港周辺の不振ぶりや木曾岬干拓は有名なことです。こうした埋立地は地方債という自治体の借金でできており、できた埋立地を完売しないとべ

いしないように設定されています。その償還を先延ばし、先延ばしにしてきましたが、もういよいよダメで、銀行、生保に続く日本の巨大な不良債権として国民に重くのしかかろうとしているのです。こうした税金の無駄遣いをこれ以上認めてはいけません。

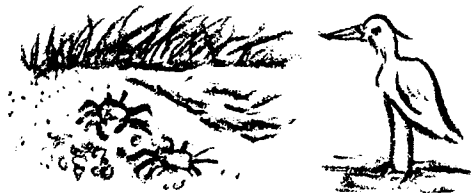
## 6. 環境ホルモンについて

田中川河口干潟の発表をした日本生態学会では、環境ホルモンやダイオキシンについて、多くの発表やシンポジウムがありました。高知大学の田辺教授の、北極圏や南極圏にすむクジラ類の環境ホルモンやダイオキシンの濃度が著しく高いと言う世界に衝撃を与えた発表もありました。その中で注目されたのはアサリの話です。現在アサリの80%は有明海産で、全国の潮干狩り場や漁場にまかれています。それがここ数年、有明海はじめ全国でアサリの減少がはじまったのです。そうした中、熊本県では外洋の砂を採ってきて有明海にまいたところ、アサリが大発生しました。有明海でのアサリ減少の原因は海底の砂泥にあったことが明らかになりました。多くの有害物質が環境基準以下なのですが、注目されているのは微量のダイオキシンや環境ホルモンなのです。もう10年前になりますが、バイガイやカキの不妊化や雄の雌化が世界中で問題になりました。こ

れは主に、船底や網にフジツボや海草の付着よけに塗られた塗料TBT（トリブチル錫）やTPT（トリフェニル錫）が主な原因でしたが、この使用が規制されてからも、北海でのアザラシの大量死、淡路島でのバイガイの壊滅、アサリの全国的減少など、小さな生物から深刻な状況になってきています。仙台市の七北田川の調査では河口のシジミの農薬濃度が、田植え直後に急上昇し、その後減少を続けるのです。原因は陸にあり、我々に返ってきているのです。

田中川河口干潟での長年の調査について詳しく語ると、干潟についてほぼすべてを語ることになってしまいました。まず、みなさん、干潟に行ってみてください。そして、アサリ掘りやシギチドリの上に心を奪われず、今日の話思い出しながら、ゆっくり干潟全体を見回して、ゆっくり歩いてみてください。

武田 憲世（上野市）



# TOPIC

守りたい！残したい！

高松海岸（朝明川河口干潟）の自然

## 三重県は霞4号線のルート変更を…！

高松海岸は朝明（あさけ）川の河口にあります。朝明川が運ぶ砂と有機物の混じった泥が川の流れや、伊勢湾の潮流の作用により、長い年月をかけて砂泥質の干潟がつくりあげられました。この干潟と砂浜をそなえた高松海岸は四日市市以北の北勢地域では唯一残された自然海岸です。砂浜には、ハマヒルガオ、ハマエドウ、ハマボウフウ、コウボウムギなどの海浜植物が毎年花をさかせます。干潟にはアサリ、ヤマトシジミ、イシジミ（アケシジミ）、シオフキ、アナジャコ、ヤマトオサガニ、ゴカイ、多種のカニ、多種の幼魚、海藻類など実に多種多様な生物がすんでいます。詳しくは本誌の探鳥会報告（5月16日高松海岸）をご覧ください。干潟についての説明はここでは省きますが、上記のような多様な生物が互いに複雑にからみあってバランスのとれた生態系をつくり、海水を浄化し自然の状態を維持しているわけです。

そして、さらにこの自然を利用する魚、野鳥、ヒトがいます。魚は干潟の生物やプランクトンを食べ、

野鳥は干潟の生物や磯のむしや魚を食べ、羽を休ませています。ヒトは水遊びや潮干狩りを楽しんだり、漁をして生計のたしにしたりするためにここをおとずれます。

このように自然と共存する反面、最近では周辺の埋め立てが進み発電所や工場もふえ、自然を脅かす一面も見えてきています。

### 霞4号幹線と富双緑地の計画

高松海岸は四日市港の港湾区域の北端に位置しています。「国際物流拠点として、港勢を拡大するに伴い予想される交通混雑の緩和をはかるため」、霞ヶ浦埠頭から国道23号を迂回して三重郡川越町を通り、整備中の第2名神高速道路に接続する臨海道路霞4号幹線の建設が計画されていることがわかりました。この計画は最初高松海岸の沖を長さ約



1kmの橋を渡すものでした。ところが橋梁区間が長いことやその下を大型船舶が通るためには橋脚を高くする必要がありコストがかさむため昨年(1998年)新しいルートが明らかになりました。

新しいルートは高松海岸の干潟を縦断します。もしこのような道路が出来た場合、工事や橋脚による干潟への影響は計り知れないものがあります。先に述べたように干潟は人々の生活やこころのよりどころとなる場であるとともに、多様な生物が持続的に生態系を維持している貴重な自然の財産です。後世にこの財産を遺したいと願う三重県支部は、98年7月に四日市港管理組合に対して計画内容について質問状を出し、回答を求めました。回答は「本計画はマスタープランであって細かい内容は未定である。」というものでした。

そこで三重県支部は、同年12月18日、霞4号幹線が干潟の上を通らないよう要望する文書を代替ルート案の図面とともに三重県知事、四日市市長、川越町長、四日市港管理組合宛におくりました(図版参照)。四日市港管理組合からの回答(99年3月31日)は、「ルートは変えない、自然環境への影響については計画が具体化する段階で配慮していく」とのことです。私たちはこの回答を受け入れることはできません。

港湾計画に関してもう一つ気になるのが、富双(ふそう)緑地計画です。富双地区の三重造船跡地は高松海岸と直線距離にして約2kmのところにあります。そこに人工の渚を含む海浜公園を造ろうというものです。すぐそばに自然海岸があるのに多額の費用をかけて人工の海岸を造る…これも理解しがたいことです。

諫早干拓地や藤前干潟の問題をきっかけにして、最近ようやく干潟の重要性が語られるようになってきましたが、それにもかかわらず高松海岸の問題が表面化してきました。一般にはまだまだ認識されていないということだとも思います。

三重県支部では今年5月16日に高松海岸で干潟の生き物観察会を行いました。8月29日(日曜日)にも高松海岸探鳥会を行います。地元の住民、行政関係者はもちろん、子どもたちや広く一般にもアピールしていきたいと思っています。8月末は、ちょうどシギやチドリの渡りの時期でもあり、世論を盛り上げるためにも、会員のみならずには是非ご参加頂きたいと思います。

(尾畑玲子 四日市市)

高松海岸道路4号幹線のルート提案

- ①入らぬ影響範囲内は高架道路とし、朝明ポンプ場へ向かって道路高さを下げていく。(道路中の数字は、道路面の高さ)
- ②高松商店の東の裏地は、橋脚で跨ぎ、遺構を保持されるようにする。
- ③高松商店から朝明ポンプ場までの間は、堤防を計画道路の南側に併設することで、堤防の高さより道路の高さが低くても、高瀬などを妨げるようにする。
- ④朝明ポンプ場の埋立地を跨ぎ、埋立地内で地下の排水施設を維持できるようにする。
- ⑤北西方向から来る車は計画道路高松川越橋南詰は、平面交差点で合流させる。
- ⑥朝明ポンプ場中朝明衛生処理場の敷地内で橋脚が設置されている地盤高に合わせる。
- ⑦交差点の南側には、三重県工業への進入路と、高松海岸支庁の駐車場を設ける。
- ⑧高松川越橋南詰と合流した後は、朝明川堤防を越えるために、道路高さを上げていく。高松海岸の道路とは高低差が生じるため、朝明川堤防道路まで交差点を設けない。
- ⑨朝明衛生処理場南側の道路を築上げて、計画道路の通行を確保し対しての出入りさせる。国道23号への出入口も含めて、高松海岸内周辺地への移動性を確保する。
- ⑩朝明川堤防道路を、在野・在岸とし堤防の高さを高上げて、計画道路との交差点を設ける。国道23号と朝明川堤防道路との敷居の交差点と、同じ形である。
- ⑪朝明川堤防道路の北西側では、既存の道路を築上げ、水防壁へ転換する。堤防道路を利用して日本ホーム等の進入路は、上場企業へ付随する。
- ⑫高松海岸西側の交差点で既存の道路とは同じ高さになるが、計画道路への乗り入れについては、西行き車線への出入りのみとする。
- ⑬高松海岸西側の交差点は、高松新田の工場用地に、交差点を転換して設置する。
- ⑭高松海岸西側南詰の交差点は、現在と同じ高さとする。
- ⑮朝明川堤防道路は、堤防道路や堤防道路などで行い、川越橋を維持し北詰水防壁の地下の排水施設を維持できるようにする。堤防壁はルートから出す。
- ⑯都市計画道路川越中交線の交差点は、川越橋から川越インターへ向かう左折専用車線を設置し、信号に影響されず常時通行できるようにする。



(高松海岸へのアクセス)

- 1) 近鉄富州原駅下車、徒歩約30分、ひたすら東へ約1.3km、国道23号を渡って北へ約500mで海岸へ
- 2) 車の場合、津、四日市方面から：国道23号、天が須賀2丁目の信号で右折、北へ約500m  
桑名方面から：国道23号、朝明大橋南詰の信号で左折、約600m防潮壁の切れ目から海岸に出る。



## 中勢～南勢地区の干潟 雲出川・櫛田川・愛宕川河口

### 雲出川の干潟

雲出川は三重県の中勢、一志郡、松阪市、久居市、津市を流れる一級河川です。この川は昔から暴れ川としてよく知られています。そのために堤防はちょっと変わった築き方、霞堤（かすみてい）が築かれています。霞堤は台風などで集中豪雨があった場合、川の氾濫を防ぐために堤防に切れ目を入れ、その外側を遊水池にしておく工法です。一時に大量の水が流れることが多いため、上流から砂が大量に流れます。その関係で雲出川河口には良好な砂質の干潟が広がっています。ここには春、秋にその砂質の干潟を好むシギ・チドリ類がたくさん集まってきます。また冬にはカモ類が越冬のために多数飛来します。全国でもまれに見られるミヤコドリはこの常連で、ツクシガモやヨクガン、トモエガモなども越冬に訪れました。

堤防の内側（後背地）は田畑が広がり、近くには溜池なども大変多いところなので、渡り鳥の中継地としては絶好の環境になっています。多種多様な旅鳥が観察できるので、近畿一円のバードウォッチャーが訪れる探鳥地ともなっており、今後とも環境の保全を訴えていきたい場所のひとつです。現在、一帯の堤防の老朽化が進み、改修工事が行われていますが、溜池の護岸工事なども進められており、環境の改善が行われないかどうか、目を光らせていく必要があると思われます。

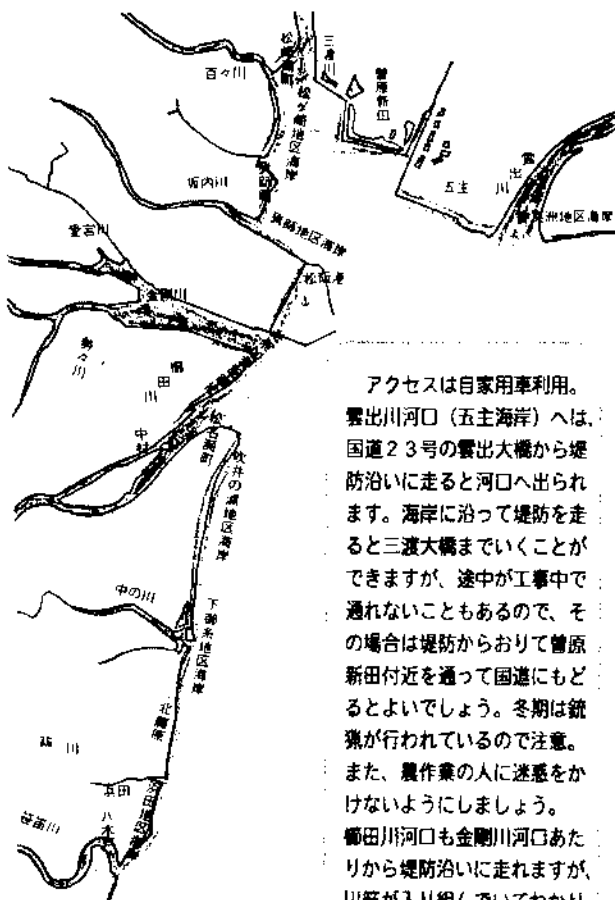
### 櫛田川の干潟

櫛田川は台高山系の北端、高見山を源流に飯南郡、多気郡、松阪市を流れる一級河川です。この川筋は昔から文化の通り道でした。下流域は元は萩川が本流だったのですが、現在は今の櫛田川で落ち着いています。河口部の干潟は砂質の干潟です。近くを流れる愛宕川、金剛川は松阪市の排水路とも言うべき川です。そのため泥質の干潟が形成されています。家庭排水によって富栄養化が進み、シギ・チドリたちはイトミズなども採餌しているようですが、前述の雲出川と異なり、砂質泥質の干潟があるので鳥の種類は櫛田川のほうが少し多いのではないかと思います。

開発計画としては、河口の先端の吹井之浦から約1Km沖に人工島を建設して港湾設備等をつくるという構想がありますが、もし実現すれば、海流の変更により環境がどう変わっていくのか少し心配です。

付近の海岸で繁殖するシロチドリの数は、近年激減しています。原因はほとんどが人為的なものと考えていますが、今後今までのような保護策ではなく、行政に働きかけるなど、根本的な保護を考えて行かなくてはならないかなと考えています。

谷本 勢津雄（松阪市）



アクセスは自家用車利用。雲出川河口（五主海岸）へは、国道23号の雲出大橋から堤防沿いに走ると河口へ出られます。海岸に沿って堤防を走ると三渡大橋までいくことができますが、途中で工事中で通れないこともあるので、その場合は堤防からおりて曾原新田付近を通って国道にもどるとよいでしょう。冬期は銃猟が行われているので注意。また、農作業の人に迷惑をかけないようにしましょう。櫛田川河口も金剛川河口あたりから堤防沿いに走れますが、川筋が入り組んでいてわかりづらいかもしれません。

図版：松阪の海の生物II（三重県教職員組合松阪支部編）より

## コーヒープレイク 干潟の生き物たち—カニの話—

チュウシャクシギが、カニを上手に食べているのを見たことがありますか。カニの仲間は、シギやチドリにとって大切な栄養源。干潟には、たくさんの種類のカニがいて、場所により、微妙に住み分けをしています。河口近くの砂地ではコマツキカニ、ヤベ泥っぽく、淡水の影響を受けるところにはチゴガニやケツツイソガニ、ヤマトオサガニなど、川沿いのアシ原にはアシハラガニ、やや水から離れたところではアカテガニ、砂浜にはスナガニ、などなど。（シオマネキやハクセンシオマネキは、伊勢湾ではほとんど見られなくなったそうです。）やや上流に住むモクスガニも、産卵時には河口へ下ってきます。たくさんのカニたちが、潮の引いた干潟ではさみをトドしている姿もよく見かけますが、このダンスも種類によってやり方が違うようで、チゴガニでは1分間に30回ほどはさみをトドしているとのこと。（オスだけが、メスへのプロポーズとして行う種類もあるそうです。）単に「野鳥のコーヒ」ではなく、ウォッチングの対象として、カニたちにもスコープを向けて見ませんか？ 参考文献：ボケッ 図鑑 海の生き物（成美堂出版）ほか



## 宮川・外城田・勢田川河口

宮川は三重を代表する大きな川です。「月に35日雨が降る」といわれる大杉谷に源を発し、14の市町村を流域としながらうねり流れて、ようやく伊勢市で伊勢湾に注ぎます。そこでは、同じ水系の五十鈴川や外城田川とともに、広大で複雑な河口独特の地形を作っています。砂浜や三角州、中州、そして砂州、さらには貴重な潟湖もあり、砂丘も見られます。干潟は、宮川河口に「おおす」といわれる大きな三角州があってその周囲に広大に出現するほか、外城田川河口や五十鈴川から勢田川にかけての河口部にも、大きさも大中小さまざまなら、その底質も泥や砂などさまざまな干潟が現れます。

宮川本流の河口部「おおす」は、かつてコアジサシが繁殖したこともある大きな三角州で、その周辺は春秋、旅鳥であるシギやチドリの渡りの中継地となるほか、ハマシギやダイゼン、多くのカモ類が越冬しています。また、この「おおす」から周辺の檜原新田（中州）にかけて、ミサゴ、チュウヒなどのタカ類を見ることもできます。

外城田川河口では、有滝町側に砂質の、東豊浜町側には泥質の干潟があります。豊富なゴカイや貝類に支えられ、多くのシギ・チドリ、カワウなどの餌場になっています。ここにも西浦という中州があり、その湿地では夏の間、数千のツバメたちが集団ねぐらを形成します。

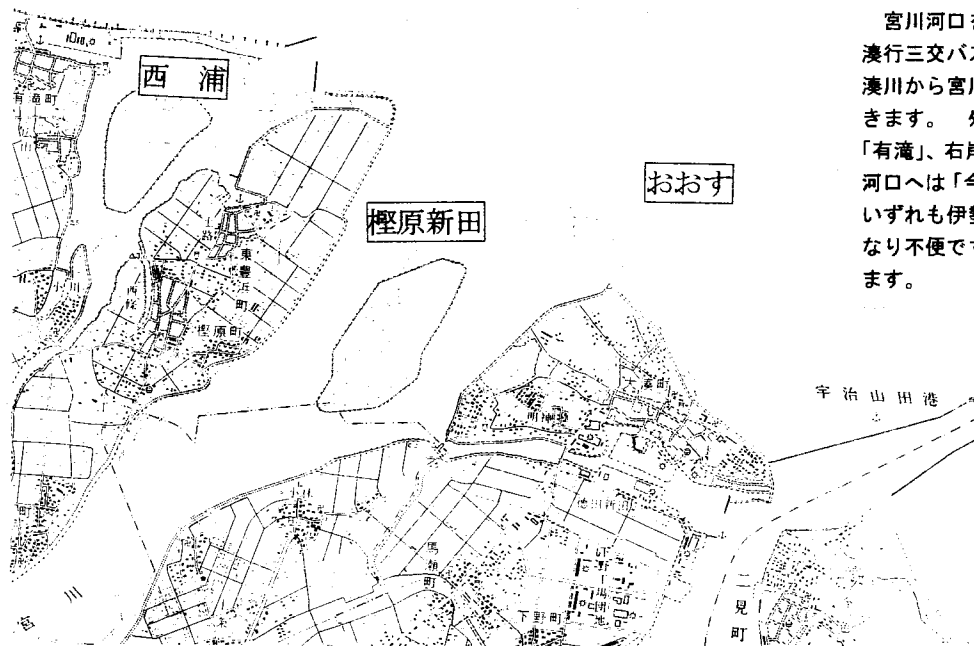
五十鈴川河口の勢田川との合流点付近には、干潮時に広大な干潟が出現します。ただし、勢田川の水質がきわめて悪いためかあまり多くのシギ類は集まりません。それでも、チュウシャクシギやキアシシギ、ソリハシギ、そして、カモ類やカワウなどをよく見かけます。また、この干潟近くの水田や養魚池では、オオヨシキリやバン、カイツブリの繁殖が見られます。五十鈴川の伊勢湾への河口にはシロチドリの繁殖地がありますが、最近その成功率は低いようです。

このように、宮川河口は、干潟とそれを取り巻く中州や湿地などが一体となって、鳥をはじめ多くの生き物にとって好都合の、多様な自然環境が形成されています。しかし同時に、そこでは漁業を中心とした産業や人の暮らしとの関わりも大きいものがあります。今年、外城田川河口では貝類増殖のために干潟に水路を掘る工事が行われました。大湊町ではかつての養鰻池跡が宅地開発され、後背湿地がほぼ消滅しました。砂浜では上流からの流砂減少のため、養浜工事が行われ、護岸の一部が階段化されました。一方、五十鈴川の後背湿地の一つである徳田新田には、流域下水道終末処理場の建設が決まっています。他にも開発の計画はあり、こうしたことが宮川河口にどのような影響を与えるのか、注目していきたいと思います。

世古口 有司（二見町）

### （宮川河口へのアクセス）

宮川河口を見るには、伊勢市駅前から大湊行三交バスに乗り、徳田停留所で下車、大湊川から宮川本流へと堤防上を30分ほど歩きます。外城田川河口左岸へは三交バス「有滝」、右岸へは「土路」、また、五十鈴川河口へは「今一色」が最寄りのバス停です。いずれも伊勢市駅前からの乗車ですが、かなり不便です。自家用車のお勧めします。



終わりに… 今回の特集はいかがでしたか？「三重の干潟」といっても、伊勢湾沿いの話ばかりになってしまいましたが、南勢・志摩地方や、東紀州地方にも重要な干潟、湿地がたくさんあると思います。特に熊野灘沿いの海跡湖など、保護の必要性が高いにも関わらず、情報が少なく、あまり知られないままに開発されてしまう場所も多いのではないのでしょうか。そういう場所について、ご存知の方がおられましたら、是非原稿をお寄せ下さい。また、海岸整備についても、階段護岸による砂浜の減少や人の踏み荒らしなど、海辺の自然環境は悪化するばかりです。スペースもなくて、なかなか取り上げられないことが多かったのですが、今後のテーマとして考えていきたいと思っています。

編集部

保護部だより

99年4月より、新体制で活動が始まりました。といっても、これまでの保護部の流れも継続しつつ、手薄な部分については強化していく方向で行っていきたいと考えています。

●「三重県の自然環境保全に関する意見書」を提出

昨年より、県内の「重要保護地域」44ヶ所をリストアップしたうち、特に緊急に保護すべき（開発などによる環境悪化の恐れがある）地域を14ヶ所に限定して、県に意見書を提出しました。

保護すべき地域を河川、海岸、里山に区分したところ、共通する問題点は、自然の状態を開発して芝生広場などを造成したりする公園化の問題です。他に、河川では河川改修、海岸では階段護岸、道路など干潟が消滅するまたは改変する恐れのある計画、海岸線の後背湿地の開発、車の乗り入れによる動植物の生息地の環境悪化、里山では宅地開発やゴミの不法投棄、など様々な問題があります。一口に「保護」といっても、一まとめにはできません。

保護部では特に、今あちこちで行われている自然の「公園化」を重要視し、ほかの問題も含めて自然環境を保全するよう、意見書としてまとめ、杉浦支部長他2名がさる6月29日、県土整備部部長を通じ、知事あてに提出しました。

●「伊勢市矢持町及び横輪町に生息するクマタカ等猛禽類の保護に関する要望書」を提出

伊勢市矢持町に計画中の産業廃棄物処分場予定地付近において、今年1月より、会員によってクマタカ等の猛禽類が観察されていました。クマタカは「種の保存法」で国内希少動植物に指定され、また環境庁の「レッドデータブック」でも絶滅危惧種に指定されています。渡りをせず、周年その地域に生息するため、産廃処分場等の施設が建設されれば生息に悪影響がでることは必至です。

急遽、南勢地区よりクマタカ等の猛禽類保護の要請を受け、7月15日に木村事務局長他2名で自然環境課課長、廃棄物処理課課長を通じ、知事宛てにクマタカの生息環境保全の要望書を提出しました。

なお、同地域はゲンジボタルの生息地としても有名で、静かな里山であり、豊かな自然が残っています。

●シロチドリ保護活動

吉崎海岸、豊津浦の保護地区で今年もシロチドリの生息調査を行いました。調査結果については、次号で報告する予定です。

※この他にもいろいろな活動を行っていますが、会員の協力あつての保護部です。各地区に保護部員がいますので、気軽に連絡を取っていただければ幸いです。

北勢地区…	近藤 義孝	Ta
津 地区…	平井 正志	Ta/F
伊賀地区…	田中 豊成	Ta F
松阪地区…	谷本 勢津雄	Ta F
南勢地区…	西村 泉	Ta/F

**自然環境を残す政策実行して**  
野鳥の会県支部 知事へ要望  
日本野鳥の会三重県支部（杉浦邦彦支部長、会員約500人）は29日、開発が実施されていたり計画がある14地域について、自然との共生を第一に考え、自然環境を残していく政策を実行するよう北川正弥知事に意見書を提出した。同支部は約1年かけ、県内で河川改修や道路建設、公園整備などが進んでいたり、計画がある地域で鳥類の生息調査を実施。保全を

しないと鳥類に深刻な影響が及ぶと考えた地域について意見書を提出した。このうち河川改修が行われている安濃川中流域について、同支部は「河川敷は自然に近い状態で、かん木やアシ原が残っており、鳥類生息の良好環境」と評価したうえで、「河岸林をこれ以上破壊すべきではない。自動車の進入を限定し、特に安濃橋上流左岸からイカルチドリ繁殖地である右岸への進入については禁止すべきだ」と保護対策を提案している。同支部によると、県内は300種以上の鳥類が生

息。北方と南方の鳥、山と海の鳥が飛来する全国有数の「鳥の楽園」という。杉浦支部長は「意見書を行政に少しでも反映させてほしい。毎年調査を繰り返して、調査内容も少しずつ充実させていきたい」と話している。【荒川 基徳】

6月30日付毎日新聞  
掲載記事より

本部より

10月より、会費制度（会員の名称）が変更になります。

現在の会員種類	10月からの 会員名称	会費額
一般会員	青い鳥会員（本部型）	本部会費5,000円
普通会員	赤い鳥会員（支部型）	本部会費1,000円+支部会費
正会員	大空会員（総合）	本部会費5,000円+支部会費
特別会員	特別会員〔今までと同じ〕	本部会費10,000円(一口)+支部費

※三重県支部の場合、支部会費は2,000円です。（「野鳥」誌8月号より転載）

**（財）日本野鳥の会のシンボルマーク募集中！**

「野鳥」誌でも紹介されていますが、本部が新しいシンボルマークのデザインを募集しています。色は自由、鳥をイメージさせるデザインで国際的にもアピールするもの、ということで、最終的にはデザイナーの手によって完成させるため、お子様の自由な図案などでも大丈夫だそうです。

応募には所定の申し込み用紙（「野鳥」誌8月号に付属）が必要なので、支部のみの会員の方や、応募用紙をなくされた方は、事務局か、お知り合いの会員の方にご相談下さい。デザイン1点について1枚必要、コピーでも使えます。

デザイン原画はA4サイズの白い紙1枚1点、締め切りは1999年10月20日です。採用作品には50万円、佳作（3点）は5万円の賞金がでるそうです。（賞金をもらったら全額「野鳥の会」に寄付します？）

応募の宛先など、詳しいことは応募用紙に記載されています。

お問い合わせは本部

（財）日本野鳥の会 企画部シンボルマーク係  
（山口、後藤）まで。

TEL 03-5358-3514 ファックス03-5358-3608

企画部販売担当より

**2000年バードカレンダー  
発売予定のお知らせ**

来年のバードカレンダーが今秋発売されます。価格は昨年並み（税込み会員価格¥1,100）程度の予定。詳細は未定ですが、9月下旬から10月初旬にかけて入荷の予定ですので、お楽しみに。

販売方法は、原則として探鳥会などの場を利用した対面販売のみとなります。今年は特に、支部在庫数に限りがありますので、なるべくお早めにお買い求めください。

入荷、販売予定、予約等につきましては、担当者または各地区の窓口にお問い合わせください。

販売担当 中村 洋子 TEL まで

**事務局日誌**

- 4～7月 設定や期間更新が計画されている県内19ヶ所の鳥獣保護区、特別保護区、銃猟禁止区域、休猟区について、行政機関からの依頼により意見書等を提出した。《事務局》
- 5月17日 「平成11年度鳥獣保護区設定効果調査」について、三重県と契約を交わし、受託した。《研究部》
- 6月29日 「三重県の自然環境保全に関する意見書」を、三重県県土整備部長に提出した。《保護部》
- 7月15日 「伊勢市矢持町及び横輪町に生息するクマタカ等猛禽類の保護に関する要望書」を三重県環境部自然環境課長に提出した。《保護部、南勢地区》
- 7月17日～18日  
本部ネイチャースクールと共催で「バードウォッチング案内人研修会」を開催。《ネイチャースクール、企画部》

※「自然と人との共存」という考え方を普及する人材養成のための、「バードウォッチング案内人研修会」の開催とその積極的な運営に対し、（財）日本野鳥の会黒田長久会長より、感謝状をいただいた。

環境の荒廃進むフィールドにて

林 益夫 (津市)

私のいつも行く野鳥観察地に、河芸マリーナ周辺があります。ここ数年、周辺の養殖池が徐々に埋め立てられ、その中で1つがいのコチドリ  
の抱卵を5月29日確認。この抱卵地に、10日に1度の割で土砂搬入のため、ダンプの出入りがあり、その轍跡約3m横にこの巣がありました。私は運転手に、むやみに進入しないよう了解を得て巣を見守ってきました。ところが6月12日に現場に行くと他のダンプが、どうみても巣の上を走っているのではないですか。万事休す。親鳥は鳴きながら飛び回っているし、巣を見に行くと跡形もない。もしやヒナがいるのでは、と期待して数時間監視している

と、2羽のヒナを発見。でも巣にあった卵は4個、残り2個体が最後まで確認できませんでした。

河芸マリーナ前浜しかり、この周辺は大きく変わってきています。マリン事業に本腰を入れ、都会人が年々増加、代償は雨天時に発生する悪臭、それにゴミ、海浜の轍跡。

でも、野生動物(一匹のキツネ)も棲みついている。この養殖池はパンの育雛場だし、2年前にヒクイナも確認しているが、ここ数年、カワウの急激な繁殖で、営巣木の松のフン害による立ち枯れがひどく、東洋紡跡地の荒廃は目を見張るほどです。これをどうしたら良いのか、考えさせられる現状です。

海蔵川探鳥会に参加して

辻 秀之 (四日市市)

テーマは「人と自然の関わり」。海蔵川は四日市市内を流れる都市河川で、下流から上流に向かって河川改修が進められています。そこでまずリーダーさんに現在改修工事中の場所へご案内頂き、つづいて未改修の場所へ。その間わずか100メートルほどでしたが、いまさらながらその差は一目瞭然、鳥の種類など手軽で有効な指標になるな、と感じました。改修工事にも目的があつて、その全てを否定するものではありませんが、本当にこの方法しかないのか、我々も考えなければならぬ問題だと思ひます。



驚いたのは、カワラヒワがセイヨウカラシナの実をついばんでいたこと。草の実大好き鳥とはいえ、いくらなんでも辛いんじゃないの。カワセミ、ゴイサギとモズの幼鳥、アマサギにチュサギ、パン、アイガモ、果てはウシガエルの交尾まで、盛りだくさんの探鳥会でした。

大阪からこちらに居を移して3年あまり、身近にフィールドのあることの幸せを、いつも心にとめておきたいものです。

- 行々子葦原見えて騒々し
- 郭公に目覚むればここ山の家
- 崖滴る樹林にこもるドラミング
- 頬赤や大草原に紅一点
- 大瑠璃や昨日の梢に今日も来る
- 老鴛や姿とどめず至近距離
- 燕住み老毫二人若返る
- 三光鳥尾を預かるか繁殖期
- 池広し天下取りたる通し鴨

頬赤

坂口 草人 (鈴鹿市)

しろちどり文芸

自然と私

佐藤 幸子 (鳥羽市)

幼い時は、空気のように、自然を特別意識することもなく、時々直撃する台風や、荒れ狂う海での洞爺丸遭難事件等で、その威力の恐ろしさに震えた。

戦争中、陸軍省衛生局学徒動員で碧素(ペニシリン)作りをやり、微生物の存在意義に目覚めて、大学では「頭の鈍い者の集まり」なんて冷やかされながら、生理・生

態講座に入り、のんびりと山、川、海等に出かけたものだ。

横浜・東京で戦火、20年近い貧しい外国生活、そして阪神大震災。その間、生物物理学・癌研究所等に勤め、複雑な生命機構を知り、個人的にも苦しいことが多かった。

でも穏やかな美しい自然、温かい人間関係がいつも私を慰めてくれた。やはり母なる自然、というところか。

ところが、最近その自然のバランスが崩れてきている。人間の方もおかしくなってきた。自然の流れを無視し、その中の小さな人間がわがまま勝手に走りすぎたようだ。

一人では何ほどのこともできないので、三重県も野鳥の方も、まだまだ一年生ながら皆さんに色々教わりつつ、自然をより深く学びたいと思っている。

高松海岸の観察会

市川 雄二 (四日市市)

朝明川の右岸は、北勢地方で最も北に位置する干潟の現れるところである。昔から潮干狩りの絶好の場所として、多くの人々に親しまれており、私も幼少のころ、家族と共に潮干狩りに訪れたところだ。ハマグリがとれたことを覚えている。

この干潟を横切る道路建設の計画がある。景観はもとより、鳥類をはじめ、干潟の生物への悪影響を懸念する。

今年、5月16日にこの場所で干潟の生き物観察会を実施した。朝方の雨で実施が危ぶまれたが、昼前には雨もやみ、潮干狩りを楽しむ人々をよそにカニ、貝、魚など多くの種類を確認した。幸いにも環境に関心の深い地元の方の意見を聞くことができた。今後、地元に住んでいる多くの人にもこの素晴らしい貴重な場所を知ってもらい、自然への関心を深めてもらうようすすめた。

テグス回収探鳥会に参加して

祖父江 克彦 (桑名市)

磯津町のテグス回収探鳥会の開催された5月9日は、好天に恵まれ、防波堤や砂浜は多くの人で賑わっていました。

入会して3年目となり、皆様のご指導により探鳥することにも慣れ、また、どの探鳥会に参加しても必ず顔見知りの方に会えるようになりました。

参加者は10名ほどで、探鳥には程よい人数でしたが、「テグスを捨てないキャンペーン」には少し寂しい感じがしました。

防潮堤の上から、浜辺や河口の水鳥を観察したのですが、幸運にも6羽の小群で何かを捕食しているミヤコドリを見ることができ、その赤く長いくちばしがとても印象的で感動しました。

その鳥の名前を聞いたとき、詩歌に詠まれた都鳥のことが頭に浮かんだのですが、後で調べましたら、「詩歌によまれる隅田川のいわゆる(都鳥)は本種ではなく全

く別のユリカモメである」と記載されており、知らないままの方がよかったと後悔しております。

この海岸に来て気になったことは、防潮堤の下や砂浜のいたる所に、ゴミや犬の糞が散乱しており、マナーの悪さが目についたことです。自分の車や家ささえきれいなら、公共の場はどうでも良いのでしょうか。誰でもきれいな所で遊んだり食事をしたりしたいはずなのに、汚していく心境が理解できません。

そんなゴミの中、テグス回収を1時間ほどしまして、約1000メートルのテグスと釣り針を回収しました。ゴミやテグスを捨てるような不心得者がいる限り、自然環境保護団体は必要な存在だと認識しました。



The Sence of Wonder  
自然再発見

その2

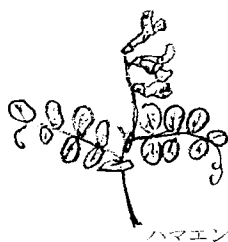
●海浜植物の観察●

海岸は平地や雑木林と比べると紫外線が強く、風がきつく、土壌は貧栄養状態であり水分の保有力に欠けます。また、塩分の影響も受けます。このような特殊な環境の中での彼らの生き残り戦略を見てみましょう。

例えばハマヒルガオを近縁のヒルガオと比較してみましょう。前者は後者よりもずっと、根が丈夫で長いです。これは強風から身を守ると同時に、吸水効果を高めます。葉は前者の方がずっと厚く、光沢があります。これも水分を溜め込み、光沢で厳しい陽光を反射するようです。風で飛ばされた砂や小石からの衝撃を和らげる効果も持ち合わせています。また、茎は立ち上がり砂の上に横たわっていますが、やはり強風対策でしょう。

葉や花穂に毛の多いケカモノハシ等では、この毛の多いことで上述の対衝撃効果を高めたり、夜間と日中の気温差に対する保温や水分の蒸散防止・塩害防止に役立っています。

海辺に生きる植物は、このようにして厳しい環境条件をクリアーしているようです。



ハマエンドウ



ケカモノハシ



ハマボウフウ



ハマヒルガオ

文：加藤 光廣 (桑名市)

このコラムは、当支部理事で自然観察指導員三重連絡会会長の加藤 光廣さんにお願いしています。一年間連載の予定です。



## 探鳥会報告 (5~7月分)

## ●第1土曜斎宮池探鳥会 (明和町)

日 時:5月1日(土)9:00~11:00

担 当:西村泉・小坂里香

参加者:12名

観察種:ヒヨドリ17・ホオジロ4・ビンズイ1・ウグイス5・ツバメ2・キジバト1・カワラヒワ4・トビ1・カイツブリ3・ヤマガラ2・コガラ1・メジロ2・シメ2・イカル2・カケス1・カウ1・アオジ1・エナガ1・スズメ1・アオガラ1・イワツバメ2・チュウサギ1・コサギ1・ハシボソガラス5・ハシブトガラス1

25種

## ●イカルチドリを観察 (亀山市) 雨のため中止

日 時:5月4日(火)9:30~12:00

担 当:楢原葵・伊藤多紀子

## ●テグス回収探鳥会 (楠町吉崎海岸)

日 時:5月9日(日)9:40~12:00

担 当:高和義・鹿島素子

参加者:13名

観察種:カイツブリ1・カンムリカイツブリ1・カウ115・ダイサギ2・アオサギ2・ミヤコドリ6・シロチドリ1・キョウジョシギ12・トウネン1・キアシシギ8・チュウシャクシギ23・ヒバリ1・ツバメ6・ハクセキレイ2・ヒヨドリ12・オオヨシキリ1・セッカ2・アジサシ2・コアジサシ10・ホオジロ1・スズメ30・ムクドリ5

21種

\*テグス回収約1時間;75g(975m)、釣り針60本回収。放置テグスは吉崎海岸側に多い。

## ●シギ・チドリとテグス拾い探鳥会 (松阪市)

日 時:5月9日(日)9:30~12:00

担 当:谷本 勢津雄・中村洋子

参加者:24名

観察種:アマサギ・ケリ・ツバメ・ダイサギ・コサギ・スズメ・オオヨシキリ・セッカ・カイツブリ・カルガモ・チュウサギ・ミサゴ・キアシシギ・チュウシャクシギ・トビ・アオサギ・カワウ・ソリハシシギ・ムクドリ・コアジサシ・タシギ・ハシボソガラス・キジバト・アオアシシギ・タカブシギ・ヒバリ・キョウジョシギ・シロチドリ・イソシギ・ヒヨドリ

30種

## ●干潟の生き物観察会・高松海岸 (川越町)

日 時:5月16日(日)11:15~14:15

担 当:木村京子・木村裕之

参加者:11名

観察種:アナジャコ・ニホンスナモグリ・エビジャコ・マメコブシガニ・ケフサイソガニ・バンケイガニ・モクズガニ・コメツキガニ・ユビナガニ・ホンヤドカリ・ハマグリ・シオフキ・アラムシロガイ・アサリ・マテガイ・ヤマトシジミ・イソシジミ・マハゼ

その他、主に干潟の生き物を観察

コアジサシ・キアシシギ4・シロチドリ・ヒバリ3・チュウシャクシギ1・ハマシギ1・ムクドリ2・セグロセキレイ1・キジバト1

鳥類9種(周辺の陸地を含む)

\*高松海岸の干潟を縦断するように霞4号幹線を建設する計画がある。四日市市以北で唯一残っている自然に近い砂浜海岸や干潟なので、何とか道路計画のルートを変更して欲しい。シギ・チドリ類については、全国的な傾向ではあるが、かなり減少してきている。

## ●サギのコロニーとムナグロ (津市)

日 時:5月16日(日)10:00~12:00

担 当:岡八智子・斎藤加代子

参加者:16名

観察種:ヒバリ・ツバメ・ケリ・チュウサギ・オオヨシキリ・スズメ・バン・ダイサギ・アオサギ・チュウシャクシギ・セッカ・セグロセキレイ・ムクドリ・キジ・ドバト・カルガモ・アマサギ・モズ・ゴイサギ・コチドリ・ヒヨドリ・キセキレイ・コサギ・キジバト・ハシブトガラス・ハシボソガラス・イソシギ・キアシシギ・ムナグロ・タカブシギ

30種

\*昨年60羽もいたムナグロが数羽しかいなかった。メッセウイングみえ西隣の中勢パイパス用地工事前に出来たガマのトボ池、葦原にたくさんの鳥が住んでいました。工事が始まり、みなどこへ行くのでしょうか。

## ●奥山愛宕神社探鳥会 (青山町)

日 時:5月23日(日)9:30~14:00

担 当:前澤昭彦・塗矢博一

参加者:9名

観察種:ヒガラ20・カッコウ1・シジュウカラ18・ミンサザイ6・カケス1・ヤマガラ6・センダイムシクイ1・コガラ3・ホトギス8・ウグイス10・ハシブトガラス8・アオガラ2・オオルリ6・アカガラ1・カワラヒワ1・ヒヨドリ14・ホオジロ10・ツツドリ1・イカル1

25種

\*子育ての時期で、ヒガラの親鳥が巣箱の中で卵を抱いていた。ミンサザイはもう巣立っていた。杉林より雑木林の方が多種の鳥が見られる。ムササビの巣を発見。(塗矢)

## ●豊津浦シロチドリ探鳥会 (河芸町)

日 時:5月30日(日)10:00~12:00

担 当:平井正志・坂口守

参加者:26名

観察種:シロチドリ・カワウ・コサギ・ヒバリ・オオヨシキリ・スズメ・ツバメ・ハシボソガラス・ホオジロ・キジバト・コアジサシ・ムクドリ・ドバト

13種

\*カワウコロニーではカワウだけでサギ類が繁殖しておらず、やや寂しい。田中川河口右岸の波打ち際にシロチドリが数羽観察された。付近で営巣が確認されていなかったため、波打ち際を南の方に移動する。つがいらしいのが確認され、観察していると1個だけ抱卵中の巣があった。

## ●海蔵川探鳥会 (四日市市)

日 時:6月4日(金)10:00~12:00

担 当:尾畑玲子・木村京子

参加者:8名

観察種:ダイサギ・チュウサギ・コサギ・ゴイサギ・バン・アマサギ・カワセミ・キジバト・セグロセキレイ・ヒヨドリ・ツバメ・キジ・モズ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ハシボソガラス

17種

\*小人数だったので行動はまとまりがよく、話も全員にもれなく聞いてもらえた。逆にこの土地の問題を多くの人に紹介できなかったのが残念。河川改修は代官橋のすぐ下の橋まで完了。そこに堰を建設中。この堰については、以前県に説明を求めた時には無かった話。この堰があるだけでも代官橋より上流の環境に影響がありそう。



●第1土曜斎宮池探鳥会 (明和町)

日時:6月5日(土)9:00~11:00

担当:西村泉

参加者:5名

観察種:アマサギ2・カワウ1・ホオジロ4・ハクセキレイ1・ヒヨドリ4・キジバト3・アオサギ1・ウグイス6・スズメ50+・コガラ2・カワラヒワ2・ツバメ3・カワセミ1・ダイサギ4・ヤマガラ2・ゴイサギ1・シジュウカラ1・ホトトギス1・メジロ2・ハシボソガラス4・ハシブトガラス

21種

●美杉村探鳥会 (美杉村三重大演習林)

日時:6月5日(土)16:30~20:30

担当:坂元伸治・中村洋子

参加者:40名

観察種:セグロセキレイ・ツバメ・ヒヨドリ・トビ・カワラヒワ・ホオジロ・ウグイス・カワガラス・キセキレイ・ツツドリ・ヨタカ・コノハズク・ミノサザイ・ヤブサメ・シジュウカラ・ヤマガラ・ケラSP・コガラ・カラスSP・オオルリ

20種

●高原のホオアカ探鳥会 (曾爾高原)

日時:6月13日(日)9:00~13:00

担当:久住勝司・橋本富三

参加者:20名(会員限定)

観察種:ホオジロ・ホオアカ・ツバメ・イワツバメ・セッカ・ヒバリ・ツツドリ・ウグイス・ホトトギス・コシキリ・キセキレイ・ハシボソガラス・カワラヒワ・トビ・カワウ・アオサギ・ヒヨドリ

17種

●サルビノ温泉探鳥会 (大山田村)

日時:6月20日(日)10:00~12:00

担当:前澤昭彦・塗矢博一

参加者:32名(大山田村観光協会共催)

観察種:カワラヒワ・カワセミ・ウグイス・ヒヨドリ・カワウ・ホオジロ・キセキレイ・ムクドリ・サシバ・セグロセキレイ・キジバト・シジュウカラ・ヒバリ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ツバメ・コジュケイ

17種

\*ここの温泉は肌にとっても良い。役場の観光課の職員が巣箱作りをして、里山の小鳥を身近に呼び寄せるとのことである。(塗矢)

●第1土曜斎宮池探鳥会 (明和町) 雨のため中止

日時:7月3日(土)9:00~11:00

担当:西村泉・山田昭子

●県民の森探鳥会 (菟野町)

日時:4月24日(土)9:30~12:00

担当:矢田栄史・辻秀之

参加者:14名

観察種:シメ・イカル・コガラ・カワラヒワ・シジュウカラ・メジロ・ヒヨドリ・エナガ・コジュケイ・キジバト・ウグイス・オオルリ

12種

\*声のみの確認が多くじっくり見られなかった。朝から雨で途中からの解散も考えながら始めた。

編集部より

■お詫び… 上記「県民の森」探鳥会(4月24日開催分)は、しろちどり23号で「雨天中止」と報告しましたが、開催されていました。

また、前号8ページの「企画部の連絡先」で、橋本祐子さんの電話番号が間違っていました。正しくは、

です。その他、白紙ページの発生など、印刷に混乱が生じていました。関係者の皆様にご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。

■「しろちどり」原稿の宛先は… (イラスト、表紙絵も大募集!!)

〒7アックス

Email

小坂 里香宛でお願いします。

パソコン通信

編集後記

今回はちょっと堅い話が多くなってしまいました。干潟にくる野鳥自体にはあまり触れなかったので、ちょっと不満のある方もいらっしゃるかもしれません。自然環境をめぐる話は、暗い話題ばかりになってしまうのが寂しいです。そこで、次回は野鳥や私たちをとりまく自然を、少しでも良い状態で残すためにがんばっているというお話を募集します。個人やグループでボランティアな自然保護活動をされている方、自然や、私たちが「偏愛」する野鳥の生息環境を守るために日常生活で気をつけていること、など紹介できる話題がありましたら、原稿をお寄せ下さい。次回締め切りはちょっと早めの10月20日の予定です。今号が出るころにはシギ・チドリの渡りの最盛期ですね。カモたちとの再会、サシバの渡りも楽しみです。 原稿鳥

しろちどり 第24号 1999年8月発行

題字 濱田 稔

表紙絵 田中 豊成

カット 山田昭子・西村泉・小坂里香・鹿島素子

編集 小坂 里香

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

杉浦 邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●